

主体的に地図帳を活用する子どもを育む 5年『これからの食料生産』の導入

～わたしたちのからだは（ ）人？～

●筑波大学附属小学校 教諭 由井 蘭健

1

子どもが主体的に
地図帳を活用する授業を

3～4年生では、「地名探し」や「名産地探し」「都道府県学習」等で楽しく活用してきた地図帳。進級した5年生は、「地図帳を最も活用できる学年」と言われていますが、具体的にどのような場面で活用したらよいのか、どのようにしたら地図帳を活用できる子どもを育めるのかという声も少なくありません。そこで、地図帳を楽しみながら主体的に活用する子どもを育む授業づくりについて、実際の授業を通して紹介します。

2

「わたしたちのからだは（ ）人？」

『わたしたちのからだは（ ）人？』といきなり板書します。「わたしたちの“からだ”？」「日本人？」「地球人！」…。『授業の最後にもう一度聞かね。では、今日“いただきます”と言った人？』『朝ごはんで言ったよ！』『何をいただくの？』『ごはん！』『食べ物』『肉とかだったら豚の命をいただきます』『魚や野菜の命も！』『生物の命！』。『そう、ぐ“いただきます”というのは、動植物の“命”をわたしの“命”にかえさせて“いただきます”という意味なんだ』と京都の偉いお坊さんが言っていました。では、今からあなた方の「命」が出てきます…』。

3

八つの「命」の産地を
地図帳から発見！

モニターにスーパーマーケットで売っているバナナの写真を提示します。『朝バナナ食べた人？駅前スーパーで199円。さあ、この命はどこからやってきたでしょうか。バナナと言えば…』『フィリピン？』『この前スーパーで見たよ。』『証拠』は？おっ早いんですね。さすが愛読書地図帳！（地図帳（令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図



図1 フィリピン

令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』p.86



写真1 バナナの
産地表示

帳』を開いてバナナ🍌のアイコン（産物記号）を探そうとする子を称賛します。』[86ページ、シ丁目の7番地にバナナを見つけた！]（図1）。

『では、この写真で本当にフィリピンかどうか見てください』。写真をアップします。「そこに、原産国フィリピンって書いてある（写真1）』『では、全員でそこを指さしてください。いっせーの一せ。フィリピンで間違いないね』。

この後、八つの「命」（食品）の産地を問うていきます。ふだんの授業から子どもたちの既知の知識や生活経験だけでなく、教科書、地図帳、資料集等を用いて「証拠」を示せるよう促していきます。『知識は与えるものではなく自ら獲得するもの』だと考えるからです。見つけた「証拠」は、クラス全員に共有することも大切にしています。提示した八つの「命」は図2の通りです。これら八つの「命」の産地は、地図帳にそのアイコンが掲載されています。

「あったあった！きゅうり。地図帳76ページの🍷の11、福島県の須賀川」[112ページの日本の統計というところにきゅうりがあって…]『ちょっと待って、時代が君に追いつかない（クラス全員

1. バナナ (フィリピン産) 🍌
2. キウイフルーツ (ニュージーランド産) 🥝
3. 特別栽培米あきたこまち (秋田県大潟村産：減農薬・減化学肥料米) 🍚
4. 牛乳 (北海道根釧台地産：牛のえさにアメリカ産大豆・とうもろこし使用) 🥛
5. さけ (ノルウェー産) 🐟
6. 卵 (茨城県小美玉産：鶏のえさにアメリカ産大豆・とうもろこし使用) 🥚
7. きゅうり (福島県須賀川産：化学肥料使用) 🥒
8. 納豆 (茨城県小美玉産・原産地：アメリカ・カナダ産大豆) 🍲

図2 八つの命

がそのページを開くまで待つよう促し、共有を徹底できるようにします』『宮崎県、群馬県、埼玉県、福島県が特に多くなっていることが載っている』『なんだ、ここを見れば一発でわかるじゃん！』『このページを最初から知っていたら、他の「命」ももっと速く見つけられたかもしれないね。すごい発見だね！（統計ページを活用する技能を称賛し、全体に共有します）』。

4

八つの「命」を 国産品と外国産品に分類する

『この八つは、みんなあなた方の「命」になっているものだよな？ これを二つに分けるとしたら…？』『とれた場所』『国産と外国産』。

- 外国産品：バナナ、キウイフルーツ、さけ
- 国産品：卵、牛乳、あきたこまち、きゅうり

『これは？』納豆を提示します。「茨城県で生産されているのだから国産品！」「でも、その原料の大豆はアメリカ（合衆国）・カナダって書いてあるから外国産品じゃないのかな…」。

『どっちかな？』。国産品と外国産品、それぞれ意見がとびかいます。『大豆ってどれくらい外国産なんだろうね？』

「地図帳108ページを開いてください。日本の食料問題のところの帯グラフを見ると、大豆は外国産が94%で国産が6%しかない！」。地図帳の資料図ページも積極的に活用していきます。『（1m定規をもって）国産6%ってことは外国産94センチいや%。ここまで全部外国産大豆なんだね』『なら外国産って言うていいかも…』。



写真2 板書

5

納豆以外の「命」の産地も見直す

『（鶏のえさをモニターに提示して）何だわかわかります？』『鶏のえさ。あっ大豆だ！』『これは国産じゃないと思う。だって鶏のえさでしょ』『外国産のえさを食べた鶏の産んだ卵は少し外国産？』。

『（乳牛のえさを提示して）どう？』『大豆が入っている。えさの5分の4以上が輸入されているって』『牛さんが外国産のえさを食べて、その牛乳を自分たちが飲んでるんだよね』『確かに…』。

『あきたこまちやきゅうりは国産品のままで大丈夫かな？』『なんかここまできると…』『化学肥料！』『化学肥料の原料はアメリカ（合衆国）、中国、カナダ…』『ネットで「わが国は化学肥料の原料のほとんどを海外に依存」って書いてある』『あきたこまちもきゅうりも化学肥料を使ってる！』『そういうこと言ったら、全部外国産品だ！』。

6

「外国に頼る食料品。 これってよいこと？」

『もう一度最初の質問に戻ります。わたしたちのからだは()人？』『外国産人』『輸入依存人！』『地球人！』『最初出ていた地球人っていうのも意外と合ってるかもしれないね。自分たちの「命」につながる食料品がほとんど外国産だったんだけど、これってよいこと？』『よくない！』『え、でもよいこともあるし、よくないこともあるんじゃない？』。

『じゃあ、次回はそこからやろう。外国に頼る食料品。これってよいことに「？」をつけておくよ。では、今日の授業を振り返りましょう』（写真2）。

輸入食材のおかげで豊かな食生活が成り立っていることだけでなく、輸入依存の高さや食料自給率の低さも実感的に捉えることができた子どもたち。次時以降、それらにともなう問題について自分の考えを問い続けていく姿が見られました。